

70周年から 新たなステージへ

特集



研究室訪問 学びのトビラ

クローズアップ別大生

地域連携

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和4年3月20日 印刷／株式会社 佐伯コミュニケーションズ
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-66-6262(広報室)
禁無断転載



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



「冬夜空1」

(冬夜空1～4のうち)

本島 颯人 (文学部 国際言語・文化学科 令和2年度卒業 卒業制作)

私は、一瞬の表情を見せる空と雲に魅力を感じており作品にしました。
この作品は、4部作のうちの1つで冬の寒々しい夜の空を表現した作品です。
(油彩 F100号)

べっふ

オリジナルボールペン

別

府大学では令和3年度、別府駅前の老舗文具店、(有)明石文昭堂と「べっふオリジナルボールペンプロジェクト」を行いました。これは同社の、95周年に向けた新商品「湯けむり文具函」の中に入る商品の一つとして「紡ぎ繋ぎ残す」をテーマに別府の魅力を伝えるオリジナルボールペンのデザインを考案する取り組みです。公募で集まった学生たちが市内でリサーチを重ね、別府の魅力を再発見しながらデザイン作成に取り組みました。

ボールペンとして商品化され、優秀作品もマスキングテープのデザインとして採用されました。いずれも、浸かれば心も体も温まる、別府の温泉のようにあたたかくほつりするデザインです。どちらも「湯けむり文具函」に入っており、全国の方々に別府の魅力を届けています。



(左から)デザインが採用された朝見愛梨さん、大野神奈さん、田中夢乃さん



鉄輪温泉を一望するスポットへ。別府に残したい風景を巡り、デザインのアイデアを探りました



田中夢乃さん、大野神奈さんのデザインが採用されたマスキングテープ

朝見愛梨さんのデザインが採用されたボールペン。本体はかわいい鬼のイラストを、パッケージには別府の伝統工芸品である竹細工をイメージしたデザインに仕上げました。



Be-News NO.124 CONTENTS

3	特集 70周年から 新たなステージへ
10	学科からのトピックス
14	卒業制作展
15	研究室訪問 学びのトビラ 食物栄養科学部 食物栄養学科 教授 平川 史子
16	クローズアップ 別大生 渡邊 温子さん (国際経営学部 国際経営学科 3年) 植木 友梨さん (短期大学部 食物栄養科 1年)
18	別府の温泉と大学
19	サークル紹介 スポーツ振興会 文化会
20	卒業生インタビュー こんにちは先輩!! 時松 栄子さん (別府大学 文学部 史学科 卒業) 後藤 洋介さん (文学部 英文学科(現 国際言語文化学科 英語・ 英文学コース) 平成16年度卒業生)
22	地域連携
23	インフォメーション



新たなステージへ

特集

70周年から

別府大学は、令和2年に創立70年を迎えました。コロナ禍の影響を考慮し記念式典などの諸行事については控えていましたが、状況が落ち着き始めたことから、令和3年12月に「創立70周年記念式典」を挙行了しました。70周年の節目を、大学創設者の佐藤義詮先生の想いを受け継ぎ、新たなステージを目指す機会となりました。

オリーブプロジェクト始動！

創立70周年は「原点から未来を創る」をテーマとし、学生が主体となる式典を目指しました。大学・短大の8つの学科の代表学生が集結し結成された「オリーブプロジェクト」。大学の未来を見つめた学生チームの活躍を紹介します。

別府の地で70年

本学創設者佐藤義詮先生（以下義詮先生）は戦後まもなく「真理はわれらを自由にする」を建学の精神に掲げ、リベラルアーツ（教養教育）を主体とした「別府女子専門学校」を開設し、新しい時代の教育を別府の地に咲かせました。昭和25（1950）年に新制大学制度の発足とともに、女子専門学校を大学に昇格させ、学部は文学部のみで学科も国文科と英文科だけという、小さな「別府女子大学」が



別府女子専門学校の女学生と義詮先生（左）

誕生しました。昭和29（1954）年には、共学の「別府大学」となり、短期大学部も設置し、別府の地で教育活動を行ってきました。令和2（2020）年に大学創立70周年を迎えました。

オリーブプロジェクトとは

義詮先生は「大学は、教授、学生を含めた学問の共同体である」という言葉を残しています。創立70周年を機に、義詮先生の想いを継承し新たなステージを生み出し、学生と教職員がともに成長をする「共育」の大学の再生を目指す



山本晴樹名誉教授（右）

ことになりました。今回の式典も「原点から未来を創る」をテーマに、学生とともに式典をつくることにし、飯沼賢司学長が中心となつてプロジェクトを立ち上げました。かつて大学のロゴデザインにオリーブの花が使われ



飯沼賢司学長

ていたことから（詳しくは8ページへ）、原点の再生の意味を込め「オリーブプロジェクト」と命名されました。大学・短大の各学科から2名ずつの代表学生と若手教員が選出され、プロジェクトの推進役となりました。

令和3年6月30日にキックオフミーティングを開催し、月に1回のペースで「オリーブ会議」を開催し、大学の歴史や建学の精神、義



仲嶺まり子短大学長

オリーブの植樹

令和3年9月25日、70周年記念事業の一環として、オリーブの植樹を行いました。ロゴデザインの研究でオリーブの花の意味を見出した、仲嶺真信名誉教授の発案です。

学生、教職員が見守る中、大学のグラウンドの東側に、オリーブプロジェクトのメンバーがオリーブの木を8本植樹しました。オリーブの木の成長に大学発展の願いを込めました。



学科の未来を考える

今回のオリーブプロジェクトの最大の使命は、原点から自分たちの学科の未来を考え、式典で提言することです。秋から、発表に向けて本格的に準備に取り



組みました。これまでの勉強会で学んだ大学の原点を踏まえ、自分たちの学科をどのようにしていきたいか、学科ごとに学生と教員が一体となって考えていきました。学科のルーツを探ったり、在学生と意見交換を行うなど、それぞれの学科の未来について発表内容をまとめていきました。



いよいよ本番！

プレゼンの練習を重ね、令和3年12月18日、いよいよ本番のステージへ。バックステージで待機する学生たちは、緊張しつつも発表を心待ちにしている様子。吹奏楽団が演奏する「ドラゴンクエスト」のテーマに合わせてステージに登場しました。約2,300人の学生、教職員、来賓の方々が見守る中、半年間取り組んできた成果



を発表。大役を果たした学生たちには、達成感と大きな笑顔が輝いていました。（各学科の発表については、6ページへ！）



ことでしょう。「オリーブプロジェクト」は今後も、共育の大学づくりの中心メンバーとして位置づけ、活動が続けていきます。

70周年記念式典

令和3年12月18日（土）に、別府ビーコンプラザコンベンションホールにて、来賓、学生、教職員など約2,300名が出席する中、70周年記念式典を挙行了しました。

式典では二宮滋夫理事長が「今こそ、建学の精神を踏まえどんな状況に遭遇しても、たくましく柔軟に対応できるよう自己研鑽に励んでほしい」と式辞を述べました。また、記念講演として仲嶺真信名誉教授が「真理はわれらを自由にする～佐藤義詮先生のロゴデザインに寄せる想い～」と題して講演を行いました。

2部では、沖縄県人会のエイサーの演舞や「オリーブプロジェクト」学生による発表が行われ、本学吹奏楽団の生演奏で大学歌を斉唱し幕を閉じました。



令和2年に70周年を迎え、一年遅れで式典を開催

司会は、本学卒業生のフリーパーソナリティ東保美紀さんが務めてくれました



国際経営学科



学生間の
つながりを強化
地域社会との橋渡し役へ

コロナ禍もあり、日本人学生と留学生との交流が希薄化しています。まずは学科内コミュニケーションを活性化させ、授業を通じて繋がりを強め、そこから地域との交流を深めていくべきです。そのためには新たなコミュニティを発足させ、確立させていくことが近道。留学生が多いという学科の強みも生かして他大学との意見交換も行っていきたいです。

国際経営学科の強み



2年 尹麗萍さん
3年 帯刀日向さん

人間関係学科



領域や学年を越えて
情報を共有できる
交流の場づくり

学科に寄せる思いを集約したところ、学習環境が豊富といった長所を確認しました。一方で、2年次から研究領域が分かれるため、交流の機会が少なくなることにも判明。そこで、学生の自主運営により、お互いの情報を分かち合い、交流できる場を作ること提案します。人の関わりを大切にしている学生が多い学科だからこそ、ぜひとも実現させていきたいです。



2年 渡辺拓己さん
3年 久門健太さん



わが大学 わが学科の未来

70周年式典の第2部では、オリブプロジェクトの学生たちが「わが大学わが学科の未来」をテーマに、それぞれの学科でどう学び、どんな学科にしたいかを発表しました。

短大・初等教育科



SNS等を通じて
研究会の魅力を
広めていくべき

研究会活動は初等教育科の伝統ですが、近年は参加率が減少し、コロナ禍で活動も停滞気味です。研究会の魅力を知ってもらうため、SNS等を通じた情報発信を始めて、在学生と卒業生の交流の場も設けていきましょう。様々な職種や年代の壁を越えた交流が広がることで、人と人との関わりを大切にする学科の特徴を打ち出していけると思います。



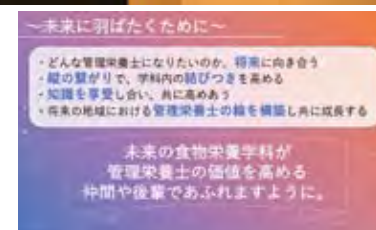
2年 秦真輝さん
2年 堺咲綾さん

食物栄養学科



管理栄養士として
現場で活躍している
卒業生との接点を

AIの登場で管理栄養士のあり方が変わってきている今、人に寄り添い、共感できる対話力が求められています。実践教育に力を入れてきた食物栄養学科ですが、現場で活躍する卒業生と交流する機会を設けていきたいです。管理栄養士の輪が広がり、共に成長していくことが、管理栄養士の価値向上に繋がっていくと思います。



2年 有田歌純さん
3年 堀田春佳さん

国際言語・文化学科



3コースが協力して
文芸が持つ力の
レベルアップを図る

文芸の本質を追求する文学・語学・芸術の3分野を学べる大学は全国でも珍しく、3コースとも特徴ある学びを実践していますが、コース同士の交流を活性化すれば、もっと素晴らしいものが生み出せるでしょう。人間が人間たり得るための学問であることはAI時代でも変わらないので、文芸が持つ本来の力を全コースが協力して引き出していきたいです。



2年 吉田未知さん
3年 白石楓葵さん

短大・食物栄養科



ハッピーな食物栄養科を
目指して積極的な
研究会活動を実践

地産地消レシピコンテストや食育活動等、積極的な活動を展開してきた当学科の学生は、主体性を持って調理のできる栄養士を目指しています。1〜2年生が協力して学科にゆかりのある“つるむらさき”を取り入れたオリジナルレシピをSNS等で発信したところ大きな反響を呼びました。学生と先生が共に歩む、ハッピーな食物栄養科を目指していきたいです。



2年 甲斐明日香さん
2年 安藤智美さん

発酵食品学科



進化する発酵技術を
多岐にわたって学べる
学科である点を発信

発酵食品が多様であるが故、さらに高い専門性が必要です。発酵食品、食品流通、食品香料コースがあることやバイオテクノロジー講義の開講等、学科の特色を学外へアピールしていきたいです。SDGs達成を目指し、微生物による環境浄化や醸造残存物の活用、宇宙時代にも対応した発酵食品開発も含めて、発酵の未来に関わる学科の存在感を発揮していきたいです。



2年 多川優也さん
3年 藤澤凱大さん

史学・文化財学科



教員と学生が
共に学び、共に育む
“共育”の実現を

個人の体験を記録・分析するオーラルヒストリー手法で課題を抽出したところ、史学・文化財学科はもともと教員と学生の距離が近く、積極的で熱意のある学生が多いことがわかりました。設立当初の熱意を再燃させる案として、全研究室が協力して総合的刊行物の制作を提案します。学生だけでなく教員の寄稿も交えて、共に学び、共に育む“共育”を実現したいです。



2年 大田悠人さん
3年 武川舜さん

留学生と日本人学生の交流が少ない点がやはり気になります。私も留学生なので自分の日本語力をさらに向上させたいです。

別府大学のロゴには長い歴史を経て、その時その時の特徴を入れ込んだデザインになっており、改めてこのロゴマークを見直すきっかけとなりました。

オリーブプロジェクトの発表は先輩方がとにかく凄かったです。知っている先輩が前に立って発表しており、応援の気持ちももちろん、尊敬の念が込み上げてきました。

いままで、別府大学に在籍していながらあまり別府大学についての歴史を知る機会がなかったため、良い時間となりました。

実際に行動することで、今回の発表の意味があると思います。

コロナ禍でも試行錯誤してよりよい学校生活を送ろうとしている点が良いと思いました。

エイサーが激アツでした。最高!

戦後の教育の変遷などを経て設立された経緯を知り、私が今保育の勉強に勤しみ、社会的自立を果たそうとすることが出来るのは義詮先生をはじめ、たくさんの人の願いがあったからなのだと強く感じる事が出来ました。

学生発表の完成度に驚いた。とても分かりやすく、簡潔に内容がまとめられて大変聞きやすかった。学部という垣根を越えて、様々な意見などに触れる時間はとても貴重でした。お疲れ様です。ありがとうございました。

別府大学の細かな歴史がわかり、自分が素敵な学校に在学していることがわかりました。

各学科が問題としてあげていたことは、大学全体で考え、より良い学びの場になるようにしていけたらいいなと思いました。

吹奏楽の演奏も聴くことが出来、とても感動しました。

ロゴデザインがこんなに深いものだとは思っていませんでした。講演を聞くことが出来てよかったです。

提案されていた交流の案などはぜひ実施してほしいと思いました。

頑張っ発表している姿を見て自分も負けてられないと改めて思いました。

大学に通って3年になりますが、他学科が学んでいることをあまり知らなかったのでこの式典で知ることが出来、とても良かったです。以前よりも大学のことが好きになりました。

それぞれの学科の視点、学生の視点を全面的に見ることができ、自分にはない視点を培う時間になりました。

学生たちの想いは？

創立70周年は、佐藤義詮先生の想いを継承し、新たなステージを生み出すことをテーマにしました。在学生たちは記念式典をどのように受け止めたのでしょうか。式典終了後の感想から、在学生の想いを紹介します。

ロゴデザインの変遷から読み解くオリーブへの想い



【デザイン①】



【デザイン②】



【デザイン③】

「オリーブプロジェクト」という名称は、佐藤義詮初代学長が掲げた建学の精神「VERITAS LIBERAT」真理はわれらを自由にする」に対する想いが込められています。記念式典当日には、仲嶺真信名誉教授による「真理はわれらを自由にする」佐藤義詮先生のロゴデザインに寄せる想い」と題した記念講演も行われました。その一部をご紹介します。

【デザイン②】

一方、『別府大学ニュースアルゴノート』や学生募集広告に使われた1965〜1968年のデザインでは、中央に大日如来（日杵石仏）、円形縁にオリーブの枝葉がレイアウトされています。臼杵磨崖仏研究の先覚者である賀川光夫教授が文学部長を務めていた当時であり、その奇抜なアイデアが反映されていると推測され、同時に佐藤学長の度量の広さと英断も窺えます。

【デザイン①】

ギリシアの学問に精通し、詩人でもあった佐藤学長は、大学のロゴやバツルのデザインをギリシア世界に求めました。別府大学創設以前に制作されたバツジは、抒情詩人の象徴である豎琴をあしらひ、一方、別府大学創設以後は、デザインの中に平和、知恵、自由を意味する「輪のオリーブ」を添えています。さらに輪郭の16条光芒をギリシア由来の太陽に見立て、建学の精神を円環状に並べました。これにより、常に古びることなく、自由自在に回転しながら生きる「建学の精神」を表現したのです。

【デザイン③】

現在使われているデザインでは、オリーブの代わりに左右に中点を入れてあります。真ん中に二重円を配し、16条光芒は【デザイン①】当時のものを踏襲。また読みやすくするために「VERITAS」の頭部の文字位置を変えています。

一連のデザインと建学の精神の関係を見ることで、佐藤学長の強い想いが伝わってきます。

別府大学開学ものがたり ～建学の夢はかたちとなり受け継がれる～

を語る

記念式典の記念品として、出席者全員に『別府大学開学ものがたり』を配布しました。制作の旗振り役となった、飯沼賢司学長に制作の想いを伺いました。（聞き手：広報室）

広…『別府大学開学ものがたり』が、無事完成しましたね。
大学創設者の佐藤義詮先生の想いを伝えるものとして、18号館（佐藤義詮記念館）に「大学史展示室」がありますが、冊子で紹介するものを作りたいと思います。創立70周年の記念誌として制作しました。義詮先生の想いを伝える冊子になったと思います。

広…表紙のオリーブの樹は先生が撮影した写真だそうですね。
表紙には、当初の大学のロゴマークに表現された、オリーブと光芒のイメージを入れたと思います。表紙写真のオリーブはフランス南部にある巨

大な水道橋ボンデューガールのそばにある樹齢1000年のオリーブです。この古樹のように大学がずっと続いていくことを願って、この写真を使いました。

広…この冊子をどのように読んでもらいたいですか？

創立70周年では、原点を探りそこから大学の未来を考えていく機会にしました。

次年度以降もこの冊子を大学の基礎テキストとして初年次教育で活用するようになっています。「大学史展示室」の見学とあわせて冊子を読んでほしい、まずは大学の歴史について知り、そして、この大学でどう学んでいくか考えてもらいたいと思います。



02 「インディペンデントリビング」上映会・監督講演会

人間関係
学科

人間関係学科創設20周年記念行事

令和3年11月26日、人間関係学科で映画「インディペンデントリビング」の自主上映会・田中悠輝監督講演会を開催しました。学科は平成12年4月に創設され、心理・福祉・教育の専門職を養成しています。コロナ感染が落ち着き、ようやく実施できました。

この映画は、大阪の障がい者自立生活運動の記録です。生活の主体性を奪われてきた障がい者自身が立ち上がり、障がい者が自己決定できる福祉社会をつくる姿が描かれています。田中悠輝監督には、映画に込めたメッセージ、学生時代に社会に飛び出し様々なことを経験することの大切さを語っていただきました。



32号館400番教室で上映



上映後の講演会



田中悠輝監督

別府駅と地域の民話をアートでコラボ

別府駅プロジェクト「猫ん芝居」



デザインが採用された吉田さん、近藤さん、久保さん(左から)、青柳さん(下の写真中央)



制作風景

国際言語・文化学科芸術表現コースによる「別府駅プロジェクト」も5年目を迎えました。今年は、コロナ禍が続いているからこそ、アートと地元の力が乗降客を元気づけると考え、国東に伝わる民話『大分県民話総集編』（土屋北彦編集、クリエイツ、2020年）から「猫ん芝居」をテーマに選びました。今年も金考源先生と長浜桂子先生の指導のもとに2年生の発展演習のなかでアイディアを出しあい、最終的に青柳彩花さん、久保幸彦さん、近藤美羽さん、吉田未知さんによって屏風の作品が仕上がりました。歌舞伎の演目を演じている猫たちの、かわ

いい姿と、コロナに負けない力強い姿が表現されました。（展示期間9月末〜12月上旬）

展示期間中に、思いがけなくひとりの旅行者から手紙をもらいました。そこには、作品を見て感激し、次回も楽しみにしている、と嬉しい感想が綴られておりました。乗降客の好意的な評価は、様々な課題に取り組む学生たちの力になっています。



「大分県民話総集編」に収録されている「猫ん芝居」

「大学生パワーで大分を元気にしよう!!」

別府市・国際経営学部共同イベントを開催、15企業も参加



地域の課題解決に向け、企業との共同研究発表

別府市と国際経営学部の共同企画「大学生パワーで大分を元気にしよう!!」が11月18日、別府大学メディアホールで開催されました。12月に開かれた大学創立70周年記念事業のプレイベントとして実施されました。イベントでは、長野恭紘市長に来賓あいさつをいただいたあと、参加企業15社と国際経営学部生35人が地域貢献の視点から活発な意見交換を展開し、まさに「大学生パワー」が発揮されました。

イベントはパート1とパート2の2部制で実施されました。パート1では(株)ソラシドエフ、(株)古城、(株)坊主地獄の3社がそれぞれ学生とともに共同の研究発表を行い、「別府の魅力『食』×『観光』を発信する取り組み」や「大分の中小企業がDXを推進するメリット」、「鉄輪に潜む『日本初の地熱発電施設』の観光活用」などについて報告されました。

パート2では、パート1で発表した3社に大分合同新聞社や(株)関屋リゾート、大分県信用金庫など地元企業12社



長野恭紘別府市長が学生を激励

が加わり、別教室で6グループに分かれて「大分を元気にするには」をテーマに議論が行われました。議論ではベトナム、スリランカ、中国からの留学生を含む35人が15企業に対して「熱い思い」をぶつけました。

上記の企業以外で参加したのは、大分ヤクルト販売(株)、地熱ワールド工業(株)、(株)システム・キープヤード、(株)IDM、(株)IOZ、(株)つなぐ、(株)J-I-T-A-K、(株)地域科学研究所、大分交通(株)。イベントの最後には、学生、企業参加者、別府市関係者、国際経営学部教員ら全員がメディア



パート2では、グループに分かれ企業と学生間で熱い討議が行われました

ホールに戻り、各グループの学生リーダーが観光振興のためのSNS活用や交通インフラの重要性などについて報告をしました。

パート2については、議論で司会役を務めたリーダー6人がイベントを受けて報告書(全12ページ)をまとめました。観光や交通インフラ、SNS有効活用、地元からの情報発信などについて議論された内容が詳細に盛り込まれ、報告書は全参加企業や別府市などに配布されました。

07

短期大学部
食物栄養科

全国育樹祭「大分おもてなし弁当コンテスト」で最優秀賞を受賞!

「旨いっちゃ大分」考案

令和4年11月に開催される第45回全国育樹祭で、式典に参加する約5千人に振る舞われる「大分おもてなし弁当」のコンテストに、食物栄養科1年生の麻生莉沙さん（大分南高校出身）と葛城日菜さん（大分商業高校出身）の考案したお弁当「旨いっちゃ大分」が最優秀賞に選ばれました。全国育樹祭では、天皇皇后両陛下が全国植樹祭でお手植えされた樹木のお手入れなどが行われ、全国から多くの方が来県される予定です。

お弁当には、郷土料理のとり天をアレンジした「レンコンはさみとり天」、そして主菜の部の部門賞を受賞した「ぶりのつけ焼き」りゅうきゅう風」など、大分県の郷土料理や県産食材を味わうことができます。

コンテストには1年生全員で取り組み、12種類のお弁当を応募しました。そのうち一次審査を通過した二人は、二次審査に向けて連日調理の練習やレシピの調整を行ってきたため、「全国から集う皆さんに味わってほしい」という夢が叶ってとても嬉しい」と喜んでいました。調理のできる栄養士を目指す学生にとって、今回の受賞は積み重ねてきた努力が全国に披露される大変すばらしい成果発表の場となりました。



受賞した葛城さんと麻生さん



最優秀賞作品「旨いっちゃ大分」

SMILE ～ワクワク楽しくみんな笑顔～

短期大学部合同「winterフェスティバル2021」開催



ダンスパフォーマンスで会場を盛り上げました!



子どもたちにパネルシアターを披露しました



食育おもちゃで子どもたちと関わりました

令和3年12月1日、別府ビーコンプラザコンベンションホールにて短期大学部食物栄養科・初等教育科合同で「winterフェスティバル2021」を開催しました。今年度の大会テーマ「SMILE～ワクワク楽しくみんな笑顔～」に願いを込めて、万全の感染対策のもと近隣の保育園や幼稚園の子どもたちと短大の全学生参加による一大フェスティバルが実現しました。

フェスティバルの前半では、初等教育科研究会による劇の発表や食物栄養科による食育おもちゃなどのステージプログラム、作品展示など、子ども向けに工夫された出し物やブース企画を通して多くの子どもたちと関わることでできました。また後半には、食物栄養科学生によるレシピコンテスト、初等教育科学生によるステージパフォーマンスなど学生が主体となつて企画したプログラムでフェスティバルを大いに盛り上げてくれました。

大会テーマのように、参加してくれた子どもたちをはじめ、学生、教職員みんなの笑顔が溢れ、思い出に残るフェスティバルになりました。今後も地域の子どもたちや学科間の交流を一層深めていきたいと思っています。

08

短期大学部
初等教育科

モンペリエ第三大学とのオンライン国際シンポジウムを開催

国際共同研究「聖域・街道・地割 古代の街道の比較研究」



本学とモンペリエ第三大学をつないでオンラインで実施

坂昇治先生が報告を行いました。また、本学名誉教授の山本晴樹先生、モンペリエ第三大学のアントワヌ・ペレス先生、マルティヌ・アセナ先生が報告へのコメントを寄せてくださいました。古代日本の官道の特質や、中世の田染荘の研究におけるデジタルデータの活用、古代ローマ帝国の街道の行政的役割について、オンラインで別府・筑紫野・モンペリエなどをつないで議論を交わすことができ、充実した国際シンポジウムとなりました。

この2年はコロナ禍の影響もあり、思うような共同研究がなかなかできない状況にあります。が、史学・文化財学科は、こうしてオンラインで研究集会を開くなどしながら、国際共同研究を着実に進めています。

06 温泉×発酵食品
「味噌」・「日本酒」発酵食品
学科

スクランブルベップで展示イベント開催

発酵食品学科では令和3年10月の1ヶ月間、別府市鉄輪温泉地区にあるスクランブルベップで発酵食品と温泉をテーマに展示会を開催しました。本イベントは発酵食品を広く一般に知ってもらふこと、温泉と発酵食品をかけあわせた新たな展開への期待について、パネルなどを用いて紹介しました。前半は「味噌」を、後半は「日本酒」をテーマにしました。期間中は会場にモニターを設置し、オンラインで学生が展示解説や発酵食品について説明を行うという、新たなスタイルを用いました。期間中に100名を超える方に



企画を担当した塩屋幸樹准教授と発酵食品学科の学生

来場していただきました。多くの方に発酵食品の魅力や、温泉との組み合わせについて知っていただく機会になったと思います。

05 食物栄養学科卒業生2名
大分県の栄養教諭として羽ばたきます!食物栄養
学科

令和3年度の大分県栄養教諭採用試験に合格

食物栄養学科卒業生2名が、令和3年度の大分県栄養教諭採用試験に合格しました。大分県下で栄養教諭として勤務する卒業生は食物栄養学科初となります。一尾優綺さん(13期生)は、保育所勤務、栄養教諭臨時講師を務めながらの受験となりました。学校勤務を通じて、多様化する子どもたちの食の課題解決に栄養教諭は不可欠であることを一層強く感じたとのこと。

二宮香織さん(14期生)はクリニック勤務を経て本学食物栄養学科助手を務めています。前職のク

リックでも小児期の食事習慣と成人の生活習慣病との関連を痛感し、学校給食や食の教育ができる栄養教諭を目指しました。

食物栄養学科は大分県下唯一の栄養教諭一種養成校です。今後も地域に貢献できる卒業生が後に続いてくれることを願っています。



栄養教諭に採用された二宮さん、一尾さん



食料栄養科学部 食料栄養学科 教授

平川 史子

Fumiko Hirakawa



プロフィール

宮崎県延岡市出身。専門分野応用栄養学
スポーツ栄養学。最終学歴：2004年 福岡
県立福岡女子大学大学院人間環境学研究所
栄養健康科学専攻修士課程修了（人間環
境学修士）。職歴：1985年～宮崎県立延岡
病院管理栄養士 1989年～株式会社福岡
ダイエーホークス（現福岡ソフトバンクホー
クス）球団管理栄養士。2006年より現職。免
許：管理栄養士、中学校高等学校家庭科教
諭専修免許状。



トレードマークのハートの
F。「大きくはばたいて
ほしい!」という学生への
愛が詰まっています

ライフステージをつなぐ食育

～研究室でともに過ごす「時間」「空間」「仲間」を大切に～

卒業研究では、各自の関心のある調
査、研究を進めていく中で管理栄養士
として必要な知識とともに①アセスメ
ント②プレゼンテーション③コミュニケー
ション④マネジメントの4つのスキルを

卒業研究で培う4つのスキル

を研究します。

平川研究室の卒業研究は「成長
期」「スポーツ選手」「女性」をキーワー
ドに研究テーマに沿って調査を行い、
文献、統計データを収集、整理し、卒
業論文を完成することを目標として
います。対象者別の身体状況、生活習
慣、栄養摂取状況などを調査し、その
対象者にふさわしい栄養ケアの方法
を研究します。

卒業研究3つのキーワード

川研究室の始まりでした。

16年前に赴任した時は、右も左もわ
からない状態で、通常の講義の準備だ
けでも大変な中、10名の卒論生がもう
すでにいると言われた瞬間は正直頭の
中が真っ白になりました。大急ぎで卒
業研究の調査に協力してくれるところ
を探し、明豊中高校の卓球部と義
理の兄弟婦の産婦人科での調査が平
川研究室の始まりでした。

となりました。

平川研究室は2022年度で16年
目を迎え、初代の食物栄養学科2期
生（平成19年度卒業生）から18期生
（新4年生）まで合わせると172名の
卒論生・O・G・O・Bを抱える大所帯
となりました。

平川研究室では楽しい行事が目白
押しです。5月ようこそー平研へ、9月
卒論発表会打ち上げ、3月4年生送
別会の他、3年生が4年生に対して制
作する国家試験ガランバ応援ムービー
は国家試験前日20時一斉配信し、国
家試験合格を目指す4年生にエールを
送ります。

研究室には楽しい行事が
いっぱい（コロナ禍で自粛中）

卒業研究を通じて
頑張る3つのこと

まず一つ目はもちろん卒論発表と論
文です。ほとんどゼミ生があきらめずに
発表論文まで仕上げます。その頑張り
の結果、過去2回食物栄養科学部長賞
を受賞しました。また、学生のさらなる
向上心を目指すために、大分県栄養士
学会や大分県スポーツ学会等でも発表
する機会を設けています。二つ目は管理
栄養士国家試験です。研究室の仲間
で励まし合いながら国家試験の勉強に取
り組みます。三つ目は就活です。ここ数
年の研究室の就職率はほぼ100%で
す。医療・福祉・行政・教育等それぞれの
分野で頑張り続けています。

卒業研究を通じて
頑張る3つのこと

習得します。主体的な学習能力を育
成するとともに、企画力、創造力、さら
に問題解決能力等を体得し、管理栄
養士としての実践力も養います。

～ Other sides of Fumiko Hirakawa ～



■2021年11月、多年にわたり栄養士教育施設においての教育に
対して、全国栄養士養成施設協会会長より表彰を受けました■平川
研究室立ち上げから続く明豊中、高校の卓球部への栄養サポート
は、学生たちを大きく成長させてくれる調査研究です■平川研究室
10周年記念の同門会には多くの門下生が参加し、大変盛り上がりま
した

卒業生同志の横のつながりはもちろ
んのこと、縦のつながり「絆」は平川研
究室の最大の強みです。毎年開催され
る平川研究室の同門会は多くの卒業
生が参加してくれま（現在自粛中）。
先輩たちはかわいい後輩たちのために
就職や恋愛などの人生相談を、後輩た
ちは優秀な先輩たちの貴重な成功体
験（失敗談??）を聞いて交流を深めてい
ます。平川研究室でともに過ごした
「時間」「空間」「仲間」を大切に
して、今後もこの輪がどんどん広がっていく
ことを願っています。

研究室でともに過ごす
「時間」「空間」「仲間」を
大切に 卒業後も



山端 穂菜「彩雲」油彩 F100号



工藤 祐介「特撮ヒーロー映画における講話分析を用いた作品構造の
解明」平成11、12年のウルトラマン作品を例にして「言語文化研究



2022 別府大学 卒業制作展

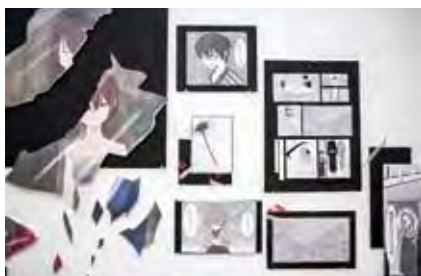
2022年2月8日（火）～13日（日）に
大分県立美術館にて「2022別府大学卒
業制作展」を開催しました。絵画、デザイン、マ
ンガ、映像・アニメーション、美術史、言語文
化の各領域で学んだ学生32名が、4年間の表
現・研究の成果を発表しました。



渡部 優真「夢現」F100号 油彩



鈴木 遼太郎「満開の桜の木の下で」カットアウトアニメーション



施 泰樺「密事御伽話」ストーリーマンガ



羅 玗雅「変わりたい。」絵本

佐藤 洸希
『子どもむけのドレッシングの企画&パッケージデザインの制作』

食べ残しのない給食を作りたい！ 大好きな子どもと食に携わる 栄養士を目指し勉強中

大分県とローソンの地産地消商品開発コンテストで
おにぎり部門の特別賞を受賞した植木友梨さん。
子どもたちの成長を支える栄養士を目指して
授業でも研究会でも積極的に活動する植木さんにインタビュー！

食物栄養科への 進学を決意した理由を教えてください

幼い頃から小さい子のお世話が好きで、幼稚園の時には保育士になりたいと思っていました。高校は調理や被服、保育の資格や検定がたくさん取れる学校に進学し、家庭科を選択。そこで受けた栄養の授業がおもしろくて、保育士ではなく保育園や学校で給食を作る仕事をしたいと思うようになったんです。栄養について学べる学校はいくつかありますが、大学編入も可能な別府大学短期大学部に決めました。

学校では積極的に活動されているようですが、 具体的にはどんなことをしていますか？

実習の授業では、大さじや小さじではなくグラム単位で量ったり、粉末のだしではなく鶏のガラからスープを作ったり、高校の実習と違って驚くことや大変なことが多いですね。決められた範囲でバランスを考えながら献立を作るのも、難しいけれど楽しいです。附属幼稚園の子どもたちとスイートポテト作りをしたことも印象に残っています。食物栄養科はみんな仲良しで楽しいですよ。

授業以外にも様々な取り組みに 参加されているそうですね

子どもの食と栄養研究会では、大分合同新聞との企画に参加し、郷土料理を紙面や動画で紹介したり、野菜クッキーを作り子ども食堂へ届けたりしました。食育ができる学生を目指し「別大生FES(Food Education Supporter)」の活動もしています。

ローソンと大分県の地産地消商品開発で 特別賞の受賞おめでとうございます

クロメを使ったおにぎりで特別賞をいただきました。アルバイトをしているうどん屋さんでクロメを知り、「コンテストを通じてクロメが広まって欲しい」と思ったのが商品開発のきっかけです。クロメは熱を入れすぎるとろみがなくなってしまうので、火加減を調整し試行錯誤を重ねました。実は高校生の時にも参加し、スイーツ部門で最優秀賞をいただきました。「お茶のケーキあんバター」は商品化され店頭に並び、父はたくさん買って会社の人に配っていましたね。高校のそばにお茶畑があり、お茶でなにか作りたかったのがきっかけでした。「こうしたらどうだろう?」とレシピを思いついたら、試してみたくなるんです。

今後、学校でやってみたいことや 将来の展望を聞かせてください

これまで研究会での食育教材づくりの活動があまりできませんでしたが、しかし最近は徐々にipadを使って野菜や果物のイラストを描くなど教材の完成に向けて頑張っています。将来は保育園や子ども園、小学校などで食べ残しの少ない給食を作り、食べ物の大切さを伝えていきたいです。

短期大学部
食物栄養科
1年

植木 友梨さん

(宇佐産業科学高等学校出身)



ローソンと大分県の共同企画コンテストで特別賞を受賞した「ごまぶちっ! トロロと甘辛クロメおにぎり」



子ども食堂へ届けた野菜クッキー

語学の勉強に終わりなし 惜しみない努力を重ね 韓国語マスターへの道を歩む

毎日の地道な勉強の繰り返しを実を結び
韓国語能力試験で最難関の6級に合格した渡邊温子さん。
昨年は目標だった韓国留学の夢も叶えました。
企業とのイベントに参加するなど意欲的な姿勢で
韓国語への情熱を保ちつつ、今日も勉強を続けています。

入学のきっかけや大学での目標はなんですか？

大学のホームページを見て、韓国への留学制度を知ったのが入学のきっかけです。私は高校卒業間近に突然、韓国アイドル・K-POPに目覚め「韓国語を勉強し、韓国に行きたい」との目標ができました。翻訳によって微妙なニュアンスが変わることなく、そのままの意味で受け取るために、韓国語の勉強は必要だと考えたのです。

韓国語能力試験TOPIKの最難関 6級の合格、おめでとうございます

まさか6級を取れるとは思っていませんでした。大学入学後に2級、2年生の時に4級に合格しました。パソコンで韓国のニュースを見聞し、わからない単語をメモして調べたり、問題集を解いて先生に添削してもらう勉強法を繰り返しました。勉強中の息抜きは、韓国アイドルの動画を見ながら単語をメモし調べることです。

大好きな韓国での留学生活はいかがでしたか？

韓国の大学に1年留学しましたが、最初はまったく言葉がわからず苦戦しました。授業はすべて韓国語。ロシア、ベトナム、中国など様々な国の学生たちが会話する輪に入れず、悔しかったのを憶えています。そこで留学先での1学期は韓国語に集中し、授業以外でも4時間勉強しました。2学期からはだいぶ聞き取れるようになり、「心理学」「人間と宇宙」などの授業も取りました。韓国語で日本社会について学ぶ授業もおもしろかったです。

帰国後はソラシドエアとの コラボ授業にも参加したそうですね

「別府の観光」をテーマに、実際の施設を訪問しながら、まちの活性化について考えました。生まれも育ちも別府ですが、地獄蒸しを食べたのもこの時が初めてで、新鮮でした。イベントなどに積極的に参加する性格ではありませんでしたが、今回をきっかけにおもしろさに目覚めたので、今後はもっと参加したいです。

大学で学んだことや、 学生さんに伝えたいことはありますか？

一つ目標を作ると、学生生活が充実します。積極的に勉強したからこそ、先生との交流も生まれました。イベントや留学なども、興味があるものにチャレンジしてみてください。挑戦すれば自信がつくし、前向きになれます。語学は継続。積み重ねていけばいつか覚醒して、突然クリアに聞き取れるようになりますよ。とはいえ、TOPIKの6級に合格しても、わからない単語はたくさんあります。見たら見ただけ知らない単語が出てくるので、語学には終わりがありませんね。

クローズアップ

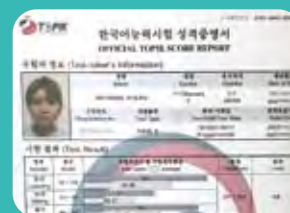
Closeup! 別大生

キラリと輝く別大生を
紹介します。

国際経営学部
国際経営学科
3年

渡邊 温子さん

(大分県立別府翔青高等学校出身)



韓国語能力試験(TOPIK)6級の合格証書。留学経験と日々の努力が実を結びました



留学中に撮影した韓国の風景です



スポーツ振興会



BUSPS44

スポーツ振興会Instagram
第44代スポーツ振興会会長
食物栄養科学部
発酵食品学科 3年
石川 誠模
(サッカー部所属)

学生からのびこり

大学生と言えばサークル活動! 違う学科の同級生や先輩後輩に出会えるので大学生活をより充実させることができます! スポーツ系サークルに入っているとフレッシュマンキャンプやリーダートレーニング等様々なイベントに参加することができます。ぜひスポーツ振興会のサークルに入って大学生生活を充実させてください。



目指す新たなリーダー像

「コロナ禍で活動できる日が少ないので、せめて普段の活動は楽しんでもらえるように、後輩たちの声に耳を傾けて活動しやすい環境を作っていきたいです」

スポーツ振興会会長の石川誠模さんは、爽やかな笑顔を浮かべながら語ってくれました。

スポーツ振興会(通称:スポ振)は、各スポーツ系サークルから8人が幹部として選ばれ、体育祭などの企画立案・運営や大学側と各サークルの調整役、地域ボランティアへの参加など、より良いサークル活動の為に日々奮闘しています。

昨年7月に会長に就任した石川さん

「硬派で厳しいイメージのあるスポ振幹部ですが、今年は厳しさの中にも親しみやすさを感じてもらえるよう、自分たちの楽しんでいる姿を後輩たちに見せていきたいです。現在スポ振のサークルの数は16サークルですが、もっと多くの人に入部してもらいサークル数を増やし、各サークルが大会で良い成績が残せるよう活動をサポートしていきたいと思っています」と、アフターコロナを見据えた活動への展望を話してくれました。

真つ赤なジャージに身を包み、伝統の継承とスポ振の発展に尽力するスポ振幹部に注目です!

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

学生からのびこり

大学という新しい環境に不安がある人もいます。そんな方はぜひサークルに入ってみてください。サークルでは頼りになる先輩や友人がたくさんでき、大学生活をより充実させることができます。僕もサークルで出会った仲間のおかげでコロナ禍でも充実した大学生活を送っています。文化会サークルへの入部をお待ちしています!



文化会Instagram

第42代文化会会長
文学部
史学・文化財学科 3年
松井 瞭弥
(器楽部所属)



交流の輪を広げる

バンド、企画、イラスト、写真、アニメなど個性豊かな活動をしている文化系サークルをまとめる団体が文化会です。文化会には各サークルから選ばれた役員9人、補佐7人の計16人で活動しています。スポ振と同じくより良いサークル活動のために企画立案・運営や、大学側への提出書類のとりまとめなど幅広く活動しています。

「先輩方が文化会として活躍する姿を見てきたので、自分に務まるのかという不安はありました。実際に会長になつてからは、会長としての自覚と責任

任感が生まれました」と、文化会会長の松井瞭弥さんは話してくれました。

今後の文化会の活動については、「ここ数年のコロナ禍でサークル間の交流が少なくなっていました。他サークルとの交流もサークル活動の楽しさの一つなので、対面だけでなく、オンラインでも文化会企画などを行い交流の場を増やしていきたいです」と、コロナ禍での文化会活動に意欲を語ってくれました。

どんな時も前向きに活動し続ける文化会の活動に期待です!

文化会



別府“温泉”大学

BEPPU 湯NIVERSITY

別府大学は、日本一の湧出量を誇る温泉シティ別府市に位置する大学です。
地域の宝である温泉をテーマにした研究・教育活動を「別府“温泉”大学」として情報発信しています。

令和3年度「温泉学概論」を実施しました

別府大学では、歴史や文
学、観光など様々な方
面から温泉の諸側面を明らか
にしていける講座「温泉学
概論」を毎年後期に開講して
います。主に1年生が受講し、
公開授業として一般の方にも
公開しています。

1月8日の講義では、松
山短期大学の黒田明良教
授に「道後温泉を地域経済
の視点で考える」をテーマに
お話していただきました。別
府市と株式会社伊予銀行
が観光振興連携に関する協
定を締結しており、その縁
で黒田先生をお招きし、道
後温泉本館保存修理を機
に、生まれ変わろうとする道
後温泉について詳しくお話し

11月26日は、いい風呂の日!

月26日は、いい風呂の
日! 大学近くの共同
温泉「前田温泉」の利用客
アップのために「学生限定
前田温泉入浴無料券」を配
布しました。



黒田先生の講義に合わせて本学ギャラリーで「別府・松山交流展」も開催

松山短期大学の黒田明良教授

ていただきました。
また、今年度は講義と合
わせて、実習として「別府八
湯ウォーク」の街歩きプログ
ラムへの参加もしくは、「別
府八湯温泉道」の初級チャレ
ンジを受講生に取り組んで
もらいました。学生たちは、
地元の方と交流したり、別
府の街の魅力を発見した
り、別府の新しい出会いを楽
しみました。

ざぼん湯で 心も からだも ぽっかぽかに

12月22日の冬至に大分
香りの博物館の足湯
で「ざぼん湯」を実施しまし
た。附属幼稚園児を招待
し、発酵食品学科が開発し
た「別府温泉水あまざけ」の
ふるまいも行いました。



前田温泉で ボランティア塗装

11月13日(協)大分県
塗装防水仕上工業
会によるボランティア塗装が
前田温泉で行われました。
前田温泉の清掃活動メン
バーをはじめ、別大生も参加
し、職人さんに教わりなが
ら、ローラーで浴室の中を
塗っていました!



はるばる 北海道から視察

12月1日、遠く北海道か
ら視察がありました。
「白老町地熱資源等検討委
員会」の九州視察団(団長・
北海道大学池田隆司名誉教
授)の皆さまが、九州の地熱
発電所を視察される中、別府
“温泉”大学にもお立ち寄り
くださいました。





株式会社コラボ
共同創業者
後藤 洋介さん

文学部英文学科現 国際言語文化学科 英語・英文学コース
平成16年度卒業生



海外留学で身につけた
コミュニケーションスキルが
今の自分の糧になっています



大分駅前構えるコラボのオフィスは、コワーキングスペースとしても機能しています

県内でもIT分野を生業とする企業が増えるなか、その一翼を担っている人物が後藤洋介さんです。「別大には提携大学への留学プログラムがあると聞いて志願しました。振り返れば、これが僕の人生に大きな影響を与えましたね」大学の仲間たちとバンド活動もしていた後藤さんは、迷わずイギリスのキングアルフレッド大学（現ウインチェスター大学）へ留学。2年後期から1年間を英国で過ごしました。「それほど英語が得意ではなかったのですが、生活していくうえで欠かせないもの。集中して勉強した結果、英語で書かれた論文まで理解できるようになりました。授業も、自分の意見を伝えることが優先されていたので、これがコミュニケーション力を磨くことに繋がりました」と

留学中に「将来は社長になる」と宣言した後藤さん。帰国してからは多くのビジネスを読み漁り、その年齢を27歳に設定。卒業後に事務機販売会社や広告代理店の営業を経て、見事に27歳で起業を果たしました。「通販誌の広告会社だったのですが、ITへの関心が強くなったので3年後に社員へ経営を譲り、フリーのディレクターとして企業のIT戦略のサポートを手がけはじめました。その実績が認められ、今では行政からも声をかけられるようになっています」



定期的なプレゼンイベントの開催が、多くのスタートアップ企業を生み出しました

時松 栄子さん
別府大学 文学部 史学科卒業



小さな想いは巡り巡って
世界を変える力になるよ
生徒にそう伝えたいです



毎年3年生に紹介している「バタフライエフェクト」。私が生徒に伝えたいことはこれだ!と思ったそう

教職課程を履修している在学生が、「中学時代の恩師に憧れて教員を目指しています。自分が苦しい時に親身に相談にのってくれ、先生のおかげで前に進むことができた」と話してくれました。その恩師こと、時松栄子先生は、別府大学の卒業生。教員になるきっかけとなった先生に会った、九重町立このえ緑陽中学校を訪ねました。

時松先生は考古学に興味があり、別府大学の史学科に進学。故賀川光夫先生の勧めで、教職を目指したそうです。卒業後、通信課程で、国語科科目を再履修し、中学国語教員として歩んできました。「中学生は、考えが柔軟で3年間で大きく変わります。成長する姿を見るのが楽しいですね」と時松先生は話します。



九重町民劇場の立ち上げ時から参加。「緞帳が下がった時の達成感は何にも代え難いです」。後列左から3番目が時松先生

2021年度全日本学生柔道優勝大会女子3人制で 本学柔道部が準優勝

11月13日、千葉県千葉市の千葉ポートアリーナにおいて、2021年度全日本学生柔道優勝大会が開催され、本学柔道部が女子3人制で準優勝しました。女子3人制には各地区代表24大学がエントリーし優勝を争いました。準決勝は同じ九州地区代表の九州共立大学に2-1で勝利。決勝では東海地区代表の皇學館大学に惜しくも0-1で敗れ準優勝という結果でした。



(株)都ネクタイより 不織布マスクとワイシャツを ご寄贈いただきました

新型コロナウイルス、特にオミクロン株による感染が世界で再拡大する中、間島康子(株)会社社都ネクタイ社長様より不織布マスク2万4000枚とワイシャツ350枚をご寄贈いただきました。檀上陽一(今日新聞社社長)様にご仲介いただき12月17日に直接本学へお持ちいただきました。ご寄贈いただいたマスクとワイシャツは、有効に活用させていただきます。ありがとうございます。



「地域社会フィールドワーク演習」 で映画『野火』を鑑賞

「地域社会フィールドワーク演習」(担当…大坪史人講師)の一環として、別府の老舗映画館である別府ブルーバード劇場にて、映画『野火』の上映会に参加しました。映画上映後、オンラインで会場と塚本監督を結び、座談会も行われました。塚本監督は、学生が観に来たことを喜んでおられました。



第40回全日本女子学生剣道優勝大会で3位の好成績！
11月14日、春日井市総合体育館(愛知県春日井市)で「第40回全国女子剣道優勝大会」が行われ、各地区予選を勝ち抜いた56大学が日本一を目指して鏑を削るなか、本学女子剣道部は5人制の団体戦において第3位の好成績を残しました。昨年新型コロナウイルスにより、すべての大会に参加することが叶わなかった先輩方の思いも胸に精一杯戦いました。



附属図書館リニール 記念コンサートを開催

令和3年3月、附属図書館1階が「Library Lounge」として生まれ変わりました。「Opening New Doors」と題したリニール記念コンサート(全3回)を開催しました。学内外から大変多くのご来場ご視聴を頂きました。今後も図書館の素晴らしい音が伝わるイベントを開催予定です。お楽しみに！コンサートの模様はYouTubeにアップロードされています。



大学院生・河野さんが「日本精神衛生学会」でBEROM賞を受賞

本学大学院臨床心理学専攻修士課程1年の河野桐香さんが、「日本精神衛生学会第37回大会(12月4日～5日…於オンライン)」での「一般演題発表」において、研究の科学的整合性、妥当性及び発展性にかかわる審査で優れた発表と認められBEROM賞(優秀賞)を受賞しました。河野さんは、「共同研究者の植山さん、高場さん、そしてご指導いただいた矢島先生の協力あつてこそだと感じており、感謝しています。今後も人々の健康維持に活かせるような研究を続けていきたいです」と喜びを語りました。



編集後記

今号は、大学創立70周年記念行事を特集しました。飯沼賢司学長は「オリブプロジェクト」『別府大学開学ものがたり』の発刊に思いを込め、教師と学生が共に育つ「共育」に根差すこれからの別府大学に希望を託されました。キャンパスに建つ佐藤義詮記念館の「大学史展示室」とともに未来の礎です。常に原点に立ち返り、未来を築く大学であってほしいと願っています。(し)

Be-NewsはHPでもご覧いただけます。

本学HPでは、下記ページにてBe-NewsのPDF版を公開しています。バックナンバーもご覧いただけます。

<https://www.beppu-u.ac.jp/general/pr/>

Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室

〒874-8501 大分県別府市北石垣82

TEL : 0977-66-6262 E-mail : koho@nm.beppu-u.ac.jp

地域連携



ドイツ兵が見た大分の人々と風景の写真展 ～大分県桜ヶ丘聖地から始まる日独交流～

2021年10月14日から「ドイツ兵が見た大分の人々と風景の写真展～大分県桜ヶ丘聖地から始まる日独交流～」を18号館2階ギャラリーホールで開催しました。本学国際・言語文化学科の安松みゆき教授のドイツ人画家の研究がきっかけで本展が企画され、日独修好160周年の節目に合わせての開催となりました。



写真展では、第一次世界大戦中、大分県立第一尋常小学校(現大分市立金池小学校)内にあった、大分収容所に収容されていたドイツ兵俘虜の生活や、兵士らが見た大分の風景や人々の写真を展示しました。写真からは、制約の中でも規則正しい生活を送り、

地域の人たちと交流したり、娯楽を楽しんだり、収容所外に出かけて大分の文化を知る機会があったことがわかります。

大分収容所で病死したユリウス・キーゼヴェッター氏の遺族のドイツ大使館付武官カルステン・キーゼヴェッター氏をはじめ多くの方々にご来場いただき、当時の収容されたドイツ兵の生活の様子やそれを見守る大分の人々の温かさを知っていただく機会になりました。(大分県立美術館でも同時開催されました)



来場したキーゼヴェッター氏(左)に説明をする安松みゆき教授(右)

障がい者アート展 「Beppu up in 別府大学」

2021年11月4日から、障がい者の就労を支援する一般社団法人デザイナーズカンパニーY.H2020(ユーツー)主催で障がい者アート展「Beppu up in 別府大学」を18号館2階ギャラリーホールで開催しました。

「別府から元気を届ける」をテーマに、災害復興支援、観光支援、withコロナ、スポーツ応援の4つのコーナーで、18名のアーティストのみなさんによる57点の作品を展示しました。本学の学生も制作の補助や会場受付をさせていただき、障がいを持った方の作品制作に大きな刺激を受けていました。展示最終日にはY.H2020(ユーツー)の入所者のみなさんによる小さな音楽会とポストカードを作るワークショップが行



切り絵やドローイング、水彩などカラフルな作品が展示されました

われ盛況のうちに幕を閉じました。

後日、展示の様子とY.H2020(ユーツー)での活動の様子をまとめた動画「Y.H2020 障害者アーティストたちの日常」が学生食堂で上映され、多くの学生が視聴しました。

この取り組みが、文化芸術活動を通じた障がいを持った方々と学生達の交流促進に寄与できれば幸いです。



「Y.H2020 障害者アーティストたちの日常」はこちらからご覧いただけます